

由利牛平らげ笑顔

由利本荘市子吉小 給食にすき焼き丼



本荘由利地域の特産「秋田由利牛」を使ったすき焼き丼が 24 日、由利本荘市の子吉小学校(大庭了校長、171 人)の給食で振る舞われ、全校児童が地元で育まれた逸品の味に舌鼓を打った。生産者などで組織する秋田由利牛振興協議会(会長・湊貴信市長)の企画。

すき焼き丼には由利牛バラ肉のほか、県産のシメジや白菜などを食材に使用。新型コロナウイルス感染拡大を警戒して無言で給食を取る「黙食」だったが、子どもたちはおいしそうに平らげ、笑顔を見せた。

6 年の入江悠翔君(12)は「由利牛は脂が乗っていて軟らかかった。今度は家でステーキを食べてみたい」と話した。

給食の時間に合わせ、由利牛のマスコットキャラクター「ゆりべこちゃん」も登場。協議会員が、由利牛について「出荷半年前からコメを食べさせることで、きめ細かい脂肪になる」などと紹介した。

視察したJA秋田しんせい由利牛肥育部会の堀内忠部会長(66)は「子どもたちがおいしそうに食べてくれてうれしい。飼料の高騰で経営は大変だが、こだわりをもって牛を育て、消費者に喜んでもらえる肉にしたい」と話した。

由利牛の給食提供は 2011 年度から実施。地元食材に親しんでもらい、家庭での購入を通じて消費拡大にもつなげる狙い。22 年度はバラ肉約 160 キロを使用し、2 月中旬までに由利本荘、にかほ両市の計 17 小学校で約 4400 食を提供する予定。(遠藤卓之)

(令和 5 年 1 月 26 日(木)秋田魁新聞より一部抜粋)